

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）

（分担）研究報告書

ブロック拠点病院のない自治体における中核拠点病院の機能評価と体制整備のための研究

～オール四国の体制の整備～

課題番号：21HB1007

【分担研究3】福祉療養施設への出張研修、意見交換に関する研究

研究分担者：末盛浩一郎（愛媛大学医学部 准教授）

研究要旨：四国のようにブロック拠点病院が近辺になく、県内の個々のエイズ拠点病院が十分に機能していない、いわゆる地方の比較的医療過疎である地区に、本研究によって HIV 診療の充実や均てん化が促されていくことが期待されている。令和5年度の研究として HIV 感染者の増加に対応するため積極的に HIV 感染者の介護・受け入れを推進するために愛媛県内の地域の療養型病院および福祉施設へ直接出張講義を数施設行う予定であったが、新型コロナウイルス蔓延にて愛媛県では今年度は1回のみ実施した。残念ながら、今年度は出張研修が多くは行えなかったが、これらの出張研修は施設への啓蒙とともに HIV 患者の入所・受け入れにも繋がり、極めて意義深い研究活動と考えてこれからも多くの施設で実施したい。

研究分担者

高田清式・愛媛大学医学部附属病院・教授
井門敬子・南松山病院・薬剤部長
若松綾・愛媛大学医学部附属病院・看護師
小野恵子・愛媛大学医学部附属病院・総合
診療サポートセンター・社会福祉士
武内世生・高知大学医学部・准教授
今滝修・香川大学医学部・講師
尾崎修治・徳島県立中央病院・医療局長

A. 研究目的

ブロック拠点病院が四国にない愛媛県において当院は、エイズ地域中核拠点病院に指定され、累計220名以上の患者を治療している。四国地区は近年 HIV・エイズ患者の増加が著しく、大半の患者が当院に受診

している。かつ四国地区は、高齢化率が各県31.5～34.8%であり、都市に比べ高齢者の HIV・エイズ患者が多く、HIV 感染および合併症が進行し日常生活に差し障りが著しく自宅以外での長期療養が必要な例も少なくない。当院は急性期病院の立場であり、自宅で生活困難な長期療養患者の対応については、他の施設への紹介・受け入れを個々の事例において行っているが HIV に対する不安や感染リスクが問題になり、受け入れに難渋しているのが実情である。さらに治療以外にも家族対応および就業面など社会的な対応も迫られることも多い。これらの実情のもと、数多くの医療スタッフによるチーム医療が必要な領域であることを踏まえ、当院では数年前より HIV 診

療チームを立ち上げ活動しつつある。こうして愛媛県各地域の各病院・施設と連携を行うように努めているものの、対応すべき HIV 感染症患者は多くかつ経済・人材面も満たされておらず、連携しうる病院・施設への啓蒙や人材の育成も患者数の増加からは極めて不十分な状況である。

この背景のもと療養病院および福祉施設にて出張研修を通じて HIV 診療や介護の意識改善・啓蒙に努めることを目的とした。また、アンケート調査等を通じ地方の HIV 診療に関する連携の実態を把握し問題点を検討する。

B. 研究方法

積極的に HIV 感染者の介護・受け入れを推進するために地域の療養型病院および福祉施設へ直接出張講義を年に数施設単位（各参加者 30～100 名程度）で行う。当院から医師・看護師・薬剤師・MSW の HIV 診療チームとして出向して講義をし、かつ各出張講義の終了時に全参加者に HIV 感染者の福祉・介護についてアンケートを行う。またこの講義の理解度・感想も確認する。なおそれらの意見を、介護用の小冊子（分担研究 4）にも反映させる。また、四国の他県でもこの出張研修を推進してもらおう。

（倫理面への配慮）

患者および関係者に対する人権の保護に配慮して行い、調査に協力できない場合も不利益にならないようにする。

C. 研究結果

HIV 感染者の増加に対応するため積極的に HIV 感染者の介護・受け入れを推進するために愛媛県内の地域の療養型病院および福祉施設へ直接出張講義を行った。今

年度はいきなりエイズ患者例の受診もあつた四国中央病院での医療体制に充実を目的に、当院から医師、看護師、薬剤師、社会福祉士が出張し、令和 5 年 5 月 31 日に開催した。

なお、厚生労働省の感染症対策部感染症対策課から直接アドバイスをいただいた、受け入れに難渋する症例などを今後蓄積し検討していくことも踏まえ、いわゆる長期療養体制構築事業として、①長期療養体制会議（中核拠点病院・拠点病院・介護施設・介護員・本人・家族など含めた現場の会議）と②政策を行うエイズ対策推進会議（行政が主体の開催で、拠点病院医療従事者から行政職員、介護支援専門員などでの政策会議）の 2 つの会議を立ち上げ円滑な受け入れのシステムを整備し令和 5 年 2 月 22 日に具体的会議を行い、発展させるため今年度も令和 6 年 2 月 22 日に行った。また、これに先立ち、令和 6 年 1 月 12 日に当大学と県内 7 保健所担当者が集まり抗体検査に関し、保健所での検査体制・陽性者の円滑な当院への紹介受診システムについて具体的討議を行った（図、写真）。

検査項目	検査実施機関	結果通知
HIV抗体検査		
スクリーニング検査	全保健所	当日(採血後40分程度)
確認検査	民間検査業者	7日以内



図、写真 県内 7 保健所との合同会議

なお、高知県は介護事業所（訪問看護と

介護施設併設) および将来の透析の受け入れを見据え透析施設の出張研修も行った。

D. 考察

四国地区という、ブロック拠点病院が近辺にない愛媛県において当院は、エイズ地域中核拠点病院に指定され、累計 220 名以上の患者を治療している。四国地区は近年 HIV・エイズ患者の増加が著しく、当県もエイズ拠点病院に指定されている病院が 15 施設もあるものの殆どが診療未経験であり、大半の患者が当院に受診している現状で、四国の他県も同じ様な実情である。かつ四国地区は、高齢化率が各県 32.2～35.9%であり、都市に比べ高齢者の HIV・エイズ患者が多く、HIV 感染および合併症が進行し日常生活に差し障りが著しく自宅以外での長期療養が必要な例も少なくない。急性期病院の当院も、自宅で生活困難な長期療養患者の対応については、他の施設への紹介・受け入れを個々の事例において行いつつあるが HIV に対する不安や感染リスクも問題になり、受け入れに苦慮している実情である。さらに治療以外に家族対応および就業面など社会的な対応も迫られることも多い。さらに愛媛県をはじめとする地方においては、高齢の HIV/エイズ患者が比較的多く、愛媛県において令和 4 年末現在 50 歳以上の 8 割は発見時にエイズ患者であるという現実があり、各拠点病院と長期療養患者を受け入れ得る介護・福祉療養施設間の連携は喫緊の課題である。

今年度はいきなりエイズ患者例の受診もあつた四国中央病院での医療体制に充実を目的に、当院から医師、看護師、薬剤師、社会福祉士が出張し、令和 5 年 5 月 31 日に開催した。

なお、これらの継続して行っている実践的な啓蒙や就業の実情は、エイズ学会での発表および雑誌に投稿し査読の結果、令和 4 年 3 巻に掲載されたが、さらに平成 5 年度にもエイズ学会雑誌に受け入れ問題等、2 論文を報告し、かつエイズ学会でも発表した。この研究事業によって、学会報告とともに、文体としてしかも継続的に研究期間中に、福祉連携のモデルとしての成果を全国に発信できたことも極めて意義深い。

また、高齢化の進んだ地方においては、薬剤の改良が年々進んでいるものの、今後 HIV 感染者の高齢化とともに薬剤の副作用を考慮した内服継続・薬剤の減量なども重要な観点として検討していく必要があると思われる今後の 1 課題と考えている。

地方において、充足した生活が 1 人では送れない HIV 感染患者に対し、拠点病院および介護福祉間の連携が円滑にできるように年々努めていく必要があると考える。さらになお、その介護福祉連携のモデル地域として今後も研究・報告を当地区から全国に発信していきたいと考える。

E. 結論

四国のブロック拠点病院がない地域において、HIV 診療体制整備のために積極的に出張講義を行うことで、各介護・福祉療養施設での具体的な問題を整理し知識・経験を共有することを目的としている。高齢化社会を迎え介護・療養が必要な HIV 感染・エイズの増加に対応するために、HIV 診療体制の整備は、特に地方においては拠点病院間のみならず介護・福祉施設との福祉連携の充実が不可欠であり研究を継続し地方のモデルという立場からもさらに向上に努めたい。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Otani, M., Shiino, T., Hachiya, A., Gatanaga, H., Watanabe, D., Takada, K., et al. Association of demographics, HCV co-infection, HIV-1 subtypes and genetic clustering with late HIV diagnosis: a retrospective analysis from the Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network. J. International AIDS Society 2023, 26 : e26086.
- 2) Taniguchi Y, Suemori K, Tanaka K, Okamoto A, Murakami A, Miyamoto H, Takasuka Y, Yamashita M, Takenaka K : Long-term transition of antibody titers in healthcare workers following the first to fourth doses of mRNA COVID-19 vaccine: Comparison of two automated SARS-CoV-2 immunoassays. J Infect Chemother. 29(5):534-538, 2023.
- 3) 中村美保, 岡崎雅史, 西田拓洋, 高橋武史, 朝霧 正, 宮崎詩織, 武内あかり, 高田清式, 武内世生. HIV 陽性者のワクチン接種状況調査. 日本エイズ学会誌 25 : 99-105, 2023.
- 4) 中村美保, 前田英武, 岡崎雅史, 西田拓洋, 朝霧 正, 四國友里, 北村優衣, 高田清式, 武内世生. 高知県内医療機関における HIV 陽性者受け入れ時の問題点と解決への取り組み. 日本エイズ学会誌 25 : 106-111, 2023.

2. 学会発表

1) 菊地 正、西澤雅子、小島潮子、大谷眞智子、Lucky Runtwene、椎野禎一郎、高田清式、吉村和久、杉浦 互他. 2022 年の国内新規診断未治療 HIV 感染者・AIDS 患者における薬剤耐性 HIV 1 の動向. 日本エイズ学会、2023 年、京都.

2) 木原久文、中尾 綾、臼井麻子、西田拓洋、徳井恵美、海面 敬、赤松祐美、谷 英俊、池谷千恵、中村美保、川田通子、武内世生、佐藤 譲、今滝 修、尾崎修治、和田秀穂、千酌浩樹、川邊憲太郎、山之内純、高田清式. 中国四国地方における HIV 関連神経認知障害に関する研究・続報. 日本エイズ学会、2023 年、京都.

3) 中尾 綾、レイシー清美、若松 綾、末盛浩一郎、河邊憲太郎、山之内純、竹中克斗、高田清式. HIV 感染者の気分状態と睡眠に関する検討 第 2 報. 日本エイズ学会、2023 年、京都.

4) 西田拓洋、中尾 綾、臼井麻子、海面敬、徳井恵美、赤松祐美、谷 英俊、池谷知恵、中村美保、川田通子、武内世生、佐藤 穰、尾崎修治、今滝 修、和田秀穂、千酌浩樹、河邊憲太郎、山之内純、高田清式. HIV 診療における CoCoBattery の活用. 日本エイズ学会、2023 年、京都.

5) 加藤潤一、越智俊元、末盛浩一郎、乗松真大、小西達矢、名部彰悟、丸田雅樹、山之内純、高田清式、竹中克斗. ART 導入後に化学療法を併用し寛解維持している HIV 関連リンパ増殖性疾患. 日本エイズ学会、2023 年、京都.

H. 知的財産権の登録状況 (予定を含む)

該当なし